

令和3年度の教育活動に対する学校評価表

学校 番号	44	キラリ高等学校	課程	通信制	記載者	加藤 久晴	A : よくできた C : 不十分だった	B : だいたいできた D : ほとんどできなかった
----------	----	---------	----	-----	-----	-------	-------------------------	-------------------------------

今年度の重点目標（学校経営目標）		具体的取り組み計画	自己評価	成果と課題	自己評価
1	通信制高校に求められる様々なニーズに対応するために、総合的な教育力をより一層向上させる。	①基礎学力の確実な定着を図るため、各教科担当による授業の研究および研修を実施する。生徒・保護者面談を通し、主体的に学習に取り組めるように導く。 ②学校内だけでなく学校外での生活指導も継続して実践・強化し、基本的な社会性・モラル・社会通念上の規範意識の徹底を図る。 ③特別活動や校外スクーリングをより充実させ、多くの生徒が積極的に関わられるようにする。 ④進路選択において必要な基本的知識・技能を育成し、自ら推進できるようになるためのキャリア教育を充実させる。	B	①各教員が担当授業の創意工夫で一定程度の基礎学力の定着はできた。また同じ教科を受け持つ教員との連携も取れた。一方で実践的な授業研修はなかなか実施できなかった。 ②放課後や休日の過ごし方などについても生徒と話し、保護者との連絡も密にした。校外学習・修学旅行等を通して社会性を学ばせた。 ③参加率も安定し、参加した生徒は十分に楽しめていた。文化祭・体育祭・クリスマス会などイベントごとに教員側も団結し良いものができた。 ④大学や専門学校・企業等と連携し、進路ガイダンスも例年に比べ充実できた。また根気強く真剣に生徒と向き合ったことで良い結果に結びついた生徒も多かった。今後はさらに多くの生徒が自ら考えて行動できるように指導を徹底したい。	
2	きめ細やかな対応を図り、生徒一人一人の個性に応じた指導を行う。	①困難を有する多様な生徒（不登校傾向・問題行動・発達障害等）が積極的かつ十分な教育を受けられるように、学習に対する動機付けや学びの意欲を喚起できる教員の増加とその要請を行う。 ②個別対応、部活動、キャリア教育、インターンシップなどの分野に十分に対応できる教員数の確保を行う。 ③指導力向上のため、各校舎・教科単位での内部研修を実施し、キラリ高校の職員としての共通認識の上で、教職員の組織化を推進する。また外部研修を活用して多様な困難を有する生徒に対する支援強化を行い、各教職員の指導力・対応力を向上させる。 ④未履修・休学中の生徒・保護者へのアプローチを継続して行い、再履修・復学を促す活動に併せて学費の未入金分の通知や交渉をすすめて回収を図る取り組みを行う。	B	①各会場にスクールカウンセラーを雇用できたことで昨年以上に困難を持つ多様な生徒に対する対応の仕方ができた。また多くの知識が得られ情報共有もできた。 ②個別対応・部活動に関しては一定の対応はできているが、キャリア教育・インターンシップに関してはまだまだ改善の余地がある。キャリア教育・インターンシップに関しては外部の企業の協力が必要だと思われる。 ③4つの校舎が点在しているため、研修がなかなか確立できていないが、校舎内・教科内で積極的にコミュニケーションを取り、一定の方向性が見えてきている。 ④未履修・休学中の生徒・保護者へ定期的な連絡を取り一部ではあるが復学させられた。一方でお金に関することでの未履修・休学の生徒へのアプローチはなかなか難しく進まない。	
3	技能連携教育施設（各スクーリング会場）のカリキュラム（コース）の改編に取り組み、通学タイプの充実を図る。	①より多くの生徒が通学タイプの全日スタイルを選択しやすいように、コース内容の再編を図り、魅力あふれる内容の転機を目指す。 ②①を推進するために、各スクーリング会場ごとにコース担当を決め、コース内容の検討・充実化を図る。 ③他会場との連携および意見交換を積極的に行い、より綿密に個々の生徒へ対応する。	B	①浜松校では国際コースを設置し、来期は保育コースも開校予定である。基礎学習コースでは修得度別でクラスを分けたり、「すららネット」を試験運用し新しい学習の仕方も取り入れた。 ②会場ごとコース担当を中心に会議を持ち、現状分析や改善点の把握が出来ている。 ③職員会議やコース担当会議を積極的に行い、全体の方向性や具体的な取り込みを共有できた。課題としては各会場の現況に合わせて柔軟なコース設定（変更）が出来ると良い。	
4	吉田本校の整備・拡充	①定着しつつある、週3日の平日スクーリング（ウイークリースタイル）を継続して実施し、部活動、キャリアデザイン、インターンシップ、ボランティア等、様々な活動を通じ高校生活の充実を図る。 ②授業実施日以外の二日間で、就職支援活動・進学指導など先を見据えた活動を行う。	B	①出席率は平均で8割を超え、100名以上が通学出来ている。勉強への取り組みに比べ、部活動等への参加は少ない。アルバイトなどを通して社会勉強（社会経験）をしている生徒が増えているように思われる。 ②授業の合間や別日を通して生徒からの相談に真摯に答え、アドバイス出来ている。特訓ゼミや「すらら」の利用など新しい試みもしているが、参加人数にはまだまだ課題が残る。	
5	I C T教育及び、校務システムの整備事業	①インターネット授業配信を円滑にすすめ、さらにレポート（添削指導）のデジタル化への移行準備を推進する。 ②校務支援システムに関して、生徒増に対応すべくさらなる業務の効率化を図る為、システムの整備・拡充をはかる。	B	①VODの配信やNHK高校講座の活用などは一定程度ではあるが、円滑にできた。ただしレポートのデジタル化に関しては利用端末（タブレットなど）や成績処理システムの問題もあり、なかなか進んでいない状況にある。 ②校務支援システムに関しては、少しずつカスタマイズしてはいるが、生徒増に伴い、抜本的な改善が必要と思われる。	